



## 『五体不満足』

乙武洋匡／著  
講談社

「障がい者」という言葉から、どんなことを思い浮かべますか？ かわいそうな人って思っていますか？ 乙武さんなら、きっと笑いながら「そう感じる君のほうがかわいそうだよ」と言うでしょう。障がいとは、ひとつの特徴、個性なのだがこの本は教えてくれます。



## 『ごめんねともだち』

内田麟太郎／作 降矢なな／絵  
偕成社

「ごめんね」が言えない苦しい気持ちのオオカミとキツネ。その感情の描写があまりにもリアルで、こちらまで苦しくなってしまう。ふたりがやっと「ごめん」を言って抱きついて何度も何度もほおずりするシーンは思わず涙が出ます。



## 『さっちゃんのまほうのて』

たばたせいいち／〔ほか〕共同制作  
偕成社

さっちゃんたちは幼稚園でおままごと遊びをします。体の小さいさっちゃん、いつも子ども役ばかり。お母さん役になりたかったのです。そんなさっちゃんには生まれつき右手の指がありませんでした…。子どもの障がいに正面から接する母親の姿にも心をうたれます。



## 『しゅくだい』

宗正美子／原案 いもようこ／文・絵  
岩崎書店

最近、赤ちゃんの世話でお母さんは大忙し。でも、今日の宿題はだっこ！ お父さんの強いだっこ。おばあちゃんの優しいだっこ。そして、お母さんのあたたかいだっこ。読んだ後にほのぼのとしてぎゅーっと抱きしめたくくなります。